

2024年2月18日
宮崎中部教会創立99周年記念礼拝
牧師 乾元美

イザヤ書 43 : 1~7
使徒言行録 2 : 36~42
「主に集められて」

【招詞】 イザヤ書 60 : 1~2

【讚美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 6 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 2 「聖なるみ神は」

【祈祷】

【聖書】 イザヤ書 43 : 1~7
使徒言行録 2 : 36~42

【説教】 「主に集められて」

<宮崎中部教会の創立記念>

わたしたちの宮崎中部教会は、今日で創立99周年を迎えました。

99年も前の、1925年2月18日。この宮崎の地で、旅館の8畳ほどの小さな一室を借りて、遣わされてきた牧師を含む、たった7人で、礼拝がささげられました。それが、この教会の始まり、創立の日とされています。

その日から、宮崎中部教会は、戦争の時も、コロナ禍の時も、主の日の礼拝を一日も欠かすことなく、ささげることが許されてきました。これまで一度も、わたしたちの命を養い、生かす、神さまの御言葉が、与えられない日はありませんでした。

教会が生まれることも、続いていくことも、すべては神さまの恵みによることです。

今日（こんにち）まで、このように宮崎中部教会が歩んで来られたのは、この教会が、人間の思いや、力によってではなく。生きて働かれる神さまによって、支えられ、守られ、導かれてきたからです。

そして、その神さまの許で、この教会に連なってきた一人一人が、信仰の先達が、熱心に祈りつつ、心から教会に仕えて、信仰を大切に受け継いできたからです。

こうして続いてきた教会の歴史の中で、今日も、わたしたちがここに集められ、神さまを礼拝する日が、また一日、加えられること。99年目の、新しい一歩目を、ここで皆さんと共に歩み出すことが出来ることを、心から神さまに感謝したいと思います。

<教会のはじまり>

さて、今日は、わたしたちの教会の創立記念日を覚えるにあたって。全世界の歴史の中における、一番はじめの教会の創立が語られている、聖書の御言葉を聞きます。

今日読まれた、使徒言行録の2章全体は、イエスさまが十字架に架けられて死に、三日目によみがえり、救いの御業を成し遂げられて、天に上げられた後。エルサレムで、使徒たちに聖霊が降った出来事。いわゆる「ペンテコステ」と呼ばれる日のことが、語られているところです。

このペンテコステの日が、この世にキリストの教会が生まれた日、とされています。

復活し、天に上げられたイエスさまは、地上に残った使徒たちに、聖霊を遣わしてくださいました。それが、聖霊降臨、と呼ばれる出来事です。

聖霊は、イエスさまの福音を語らせる霊であり、信仰を与える霊であり、救いの恵みに与らせる霊です。

そしてこの日、聖霊を受けた弟子のペトロは、エルサレムにいた多くの人々に向かって、力強くイエスさまのことを語り出したのです。

「あの、十字架につけて殺され、そして復活し、天に上げられたイエスさまこそ、預言者を通して、神さまが遣わすと約束しておられた、まことの救い主である。あのイエスさまこそ、わたしたちの罪を贖い、死に打ち勝ち、わたしたちの救い主となられた方である。」

…実は、今日読まれた、使徒言行録の最初の部分、2:36 は、ペトロが語ったこの説教の、一番最後の部分でした。説教の最後の部分には、こうありました。

「だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

そして、これを聞いたエルサレムの人々は、大いに心を打たれ、ペトロの言葉を受け入れて、イエスさまを信じ、洗礼を受けたといえます。2:41 によれば、その日に三千人もの人が、洗礼を受けて、使徒たちの仲間に加わった、とあります。

ちょっと想像が及ばないような人数ではありますが、これが、世界で一番最初のキリストの教会が誕生した場面なのです。

<教会=召し集められた者の群れ>

ところで、「教会」が誕生したといっても、それは何か立派な建物が建てられた、ということではありません。「教会」と言われれば、普通は、十字架のシンボルが付いている、礼拝堂の建物を思い浮かべるかも知れません。

でも、日本語で「教会」と言われている言葉は、ギリシア語では「エクレーシア」と言っていて、本来は「召し集められた者の群れ」という意味です。「教会」とは、「建物」ではなくて、「集められた人々の群れ」のことなのです。

召し集められた者の群れ。では、誰が、誰を召し集めるのでしょうか。使徒言行録 2：38～39 には、ペトロの言葉で、こうありました。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

ここには、「この約束は、…わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられている」とあります。

つまり、招き、召し出し、集めてくださるのは神さまで。すべての主体は神さまで。神さまが、人々を救いへと招いてくださるのです。神さまから、救いを差し出してくださるのです。神さまから、わたしたちの名前を呼んでくださるのです。

そして神さまは、悔い改めて、イエス・キリストの名によって洗礼を受けた者には、だれにでも、罪の赦しと、聖霊の賜物を与える。そう約束してくださっているのです。

この神さまの招きに応じて、約束を受け取って、神さまの御許に集められた者たちの群れ。これこそが、「教会」です。

わたしたちの、宮崎中部教会の歴史を見ても、「教会」が「召し集められた者の群れ」を意味する、ということがよく分かります。

この礼拝堂の建物が建ったのは、1934 年です。しかしそれは、教会の創立を記念する日ではありません。それより 9 年前の、旅館で借りた小さな部屋に、神さまに招かれ、礼拝する者たちが召し集められた 1925 年こそが、教会がこの地に立てられた日、教会のはじまりの日なのです。

<ずっと続く神さまの御業>

さて、ペンテコステの日に、聖霊に満たされたペトロの説教を通して、神さまに招かれ、イエスさまの名によって洗礼を受けた者たちは、召し集められた群れとなって、その後、どうしたのでしょうか。

42 節には、その最初の教会でなされていたことが語られています。こうありました。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」。

4 つのことが書かれています。

まず、「使徒の教え」とは、神の御子イエスさまの十字架と復活の出来事によって、わたしたちが罪から救われ、永遠の命を与えられるという、救いの知らせ、福音を教えることです。イエスさまが、わたしたちの主となり、救い主になって下さったということをお教えることです。神さまの救いへの招きを伝えること、と言っても良いでしょう。

次に、「相互の交わり」とは、集められた者たちが、互いに助け合い、励まし合い、恵みも労苦も分かち合って、共に歩むことです。

3つ目の「パンを裂くこと」とは、イエスさまが最後の晩餐の時に命じられたように、イエスさまの十字架の出来事を覚えて、パンと杯による聖餐に与ることです。

そして最後に、「祈ることに熱心であった」と語られています。

紀元1世紀の初め頃に、使徒たちと、神さまに招かれ、召し集められた三千人は、イエスさまを信じる群れ、教会として、このようにして歩み始めたのです。

さて、どうでしょうか。ここで語られていることは、今、ここに集められているわたしたちが、いつも礼拝でしていることと、まったく同じなのではないでしょうか。

そうです。まず、ここにいる一人一人も、神さまに招かれて、今ここにいます。

そして、今わたしたちは、主の日ごとに集められて、共に神さまを礼拝し、使徒の教え、つまり、イエスさまの福音を聖書の御言葉から聞き、相互の交わりをなし、聖餐にあずかり、祈っています。

また、この群れの中には、御言葉を通して、神さまの救いへの招きを聞き、これからそれにお応えして、洗礼を受けてゆく方も、おられるかも知れません。そうして、神さまを礼拝する群れにおいて、そこで、また新しく招かれる者が興り、救いの恵みを受け取って、群れに、仲間に、加えられていくのです。

そうやって、教会は成長し、前進し、ますます神さまの救いの恵みは、地上に、人々に、広がっていくのです。

…つまり、わたしたちの教会もまた、あの、使徒言行録の時代に生まれた教会から、ずっと繋がっているのです。

聖書に語られている、神さまの救いの歴史の中に、今ここにいるわたしたちも、同じように置かれているのです。

あの聖霊が降って教会が生まれた日から、これだけの時代を超えて、場所も超えて、今もなお神さまは、人々をご自分の救いの下へと招き続けておられます。神さまは、今も、教会に聖霊を注ぎ、イエスさまが成し遂げられた救いを、地上の一人でも多くの者に与えようと、働き続けてくださっているのです。

神さまは、ご自分がお造りになった、一人一人の人間を、わたしたち一人一人を、深く愛し、慈しみ、憐れんでくださるお方です。

だからこそ、御子イエスさまの命を犠牲にしてでも、わたしたちを罪から救い出し、滅びから助け出し、愛に生きる者、恵みに生きる者、神さまと共に、まことの平安に生きる者にしようとしておられるのです。だから今も、ご自分の愛の下に生きるようにと、すべての者を招いてくださっているのです。

そして、その愛の御心によって、エルサレムの教会から、神さまの招きの声は広がり、時も超えて、場所も超えて、わたしたちにまで及んだのです。だから、ここにもまた、神さまに招かれた者の群れ、イエスさまの救いに与った者の群れが、存在しているのです。

<主が招いてくださる者なら>

使徒言行録 2 : 39 には、こうありました。「この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

このイエスさまの救いの約束は、遠くにいるすべての人にも、神さまが招いてくださる者なら、だれにでも与えられている。そうペトロは語りました。

そして今、事実、時を大きく隔てた 2024 年、エルサレムから遥か彼方の、この日本の、宮崎の地の、遠くにいるわたしたちをも、神さまは招いてくださったのです。

聖書の御言葉は、必ず実現します。神さまは、どんなに遠くにいる者にも。それは、時間的な遠さかも知れませんが、場所的な遠さかも知れませんが、あるいは、罪深さによって、神さまご自身から、あまりにも遠く離れている者のことかも知れません。

しかし、どんなに遠く離れている者でも、神さまが招いてくださる者なら、だれでも救いに与ることが出来るのです。罪を赦していただき、聖霊をいただき、神さまを「父よ」と親しく呼ぶ、そんな神さまとの親しい関係に、生きていくことができるのです。

その招きの御声は、確かに、わたしたちにも届けられました。そしてこれからも、神さまは、遠くにいるすべての人を、招き続けていかれるでしょう。

神さまの御心は、神さまが望んでおられることは、すべての者が、神さまの愛を知り、イエスさまの救いを受け取り、聖霊の賜物をいただいて、神さまと共に生きる者になることだからです。

ですから、神さまの御業は、これからも続いていきます。終わりの日が来るまで。救いの完成の日が来るまで。神さまの救いへの招きの御声は、どこまでも広がっていきます。

そして神さまは、教会に聖霊を注ぎ、わたしたちを用いて、その招きの御声を、この世に響かせようとしておられます。

ですから、召し集められたわたしたちがなすべきことは、共に心からの礼拝をささげ、聖霊の導きによって、イエスさまの福音を力強く宣べ伝えること。相互の交わりで、互いに信仰を励まし合い、支え合って歩んでいくこと。聖餐にあずかり、イエスさまの救いの恵みに、豊かに養われながら、生き生きとした信仰に生きること。そして、熱心に祈っていくことです。

この 99 年間も、宮崎中部教会は、そのようにして神さまに生かされ、仲間を加えられ、成長して歩んできたのです。

来年、100 周年を迎えても。またさらにその先の 100 年に至るまでも。わたしたちは、神さまが、わたしたちの思いを超えた大きな恵みのご計画を、必ず御言葉の通りに実現してくださる方であることを信じて。これからも、神さまの驚くべき救いの御業が、なされていくことを信じて。共に、神さまの御心に従っていきたくと願います。

一人でも多くの者が、神さまのお招きに応じて、神さまと共に生きる喜びに、慰めに、平安に、与ることができますように。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

【お祈り】 天の父なる神さま

あなたが、この地の人々を、イエスさまの救いへと招いて下さり、召し集めてくださり、この宮崎中部教会を、この宮崎の地に与えて下さいましたことを、心から感謝いたします。

これまで多くの者が、あなたの招きの御声を聞き、イエスさまの救いを受け取り、聖霊に満たされ、この群れに加えられて、生き生きとした信仰の歩みを与えられてきました。

また、そのようなあなたの救いの恵みに応じて、信仰の先達が、熱心な祈りと、献身をもってこの教会に仕え、礼拝を喜んでささげ続け、伝道の業に励み、99年もの歩みが刻まれてきましたことも、心から感謝いたします。

どうか、わたしたちもまた、あなたの御心によって召し集められた、その恵みに感謝して。その喜びを深く味わって。これからも、共に心からあなたを礼拝し、賛美していくことが出来ますように。また、一人でも多くの者を招こうとしておられる、あなたの御心に、伝道の御業に、仕えていくことが出来ますように。そして、聖餐の食卓に、一人でも多くの者が加えられますようにと、心から祈り願います。

神さま、これからの教会の歩みを、さらに、あなたがますます祝し、守り、支えてくださいますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 401 「しもべらよ、み声きけ」

【信仰告白】 ニカリア信条

【聖餐】

【讃美歌】 79 「みまえにわれらつどい」

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 29 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン